農大だより

令和元年９月号　No. 78
編集発行：愛知県立農業大学校

カルフォルニア大学デービス校（ＵＣＤ）アニメクラブ員と交流しました

日本文化を学ぶため日本を訪問中のカルフォルニア大学デービス校（以下、UCD）アニメクラブ員20名と引率の教諭１名が、９月５日(木)に本校を訪問し、本校学生と交流しました。

当日は前日夜半過ぎから午前中にかけて降雨があり、天気が心配されましたが、午後からは曇り空となりました。

［ようこそ、愛知農大へ］

学校行事では、最初に校長が英語で歓迎のあいさつをした後、畜産グループを除く６つの専攻に分かれて、専攻実習の体験を行ってもらいました。

相手方の学生は日本語がわからず、また、各専攻でも英語が堪能な者がいなかったことから、初めはぎこちない感じもありましたが、好きなアニメから知っている英単語とジェスチャーで次第に溶け込みながら、交流が進んでいきました。

［バラの調整作業を体験］

果樹専攻では、旬を迎えたぶどうの「巨峰」や「シャインマスカット」など様々な種類を味わってもらっていました。また、切花専攻ではバラの出荷調整を体験してもらいました。

［果樹園でおいしいブドウを試食］

専攻実習の体験後は、交流会の運営は学生会が引き継ぎました。午後４時から本校隣の愛知県青年の家野外施設で、10班に分かれてカレーライスづくりに取り掛かりました。身振り・手振りにブロークンイングリッシュが飛び交う中、両校の学生が協力して火をおこし大鍋に野菜と肉を入れて、10鍋10様のカレーが出来上がりました。

［両校の学生が協力してカレーライスづくりに挑戦］

食後は会場を本校大講義室に移し、日本の伝統文化である「詩吟」を鑑賞しました。これは、「若い人に詩吟に触れてもらいたい」という地元の詩吟クラブである三河岳精会の皆様と、「日本の文化を体験したい」UCD アニメクラブを学生会が取り持ち実

現した企画でした。両校の学生達ともに緊張感につつまれ、凛とした雰囲気の中で、２人の合吟による「富士山」、剣舞を伴った「岡崎城」、農民の苦労・食べ物の大切さを訴えた「農を憫む」に聴き入りました。

［「岡崎城」を鑑賞する学生たち］

最後は体育館で、双方３チームをつくって15分１セットで白熱のバレーボール対抗戦を行いました。真剣勝負の中、時おり、あらぬ方向にボールが飛んだり、レシーブを空振りしたり、笑いにつつまれた国際親善試合となりました。３試合終了後に全員で集合写真を撮影しましたが、その後も、あちらこちらスマホで一緒に写真に納まったり、SNS を交換したり、真の国際交流が展開されました。

［バレーボール終了後、全員で記念撮影］

後日、学生会では「手作りのウエルカム・フラッグが好評だった。」「UCD と農大の学生が一緒になって、カレーを作ることができてよかった。」などの意見が出されており、成功裏に終わった交流会となりました。

（教育部長　黒田　貴信）

ただいま「派遣実習」真っ最中！

本校教育部農学科において特徴的かつ重要な学習である「派遣実習」が９月10日（火）から始まり、１年生96名が86件（うち県内81件）の受入農家で実習を行っています。

派遣実習初日には、県内各地域の農業改良普及課（駐在室を含む）所管の12か所で、受入農家、学生、農業改良普及課職員、本校職員が出席して開始式を行いました。

派遣実習は、先進農家等でより実践的な技術や経営方法、農家生活を体験し、本校では知ることのできない農業を肌で感じ学ぶものです。近年は６割強の学生が非農家出身で農業高校以外からの入学も増えており、農業について漠然としたイメージを持っているだけで入学してきます。派遣実習は実際の農業経営に触れ、農業とはどういうものなのか、自分は本当に農業関係に進むことができるのかどうかなど、将来自分の進むべき道が農業分野か否かを選択するいわばインターンシップの側面が大きくなってきました。

［海部農林水産事務所での開始式］

今年度は豚コレラの発生を受け、養豚・養鶏専攻（養豚）の学生について派遣先の選定は難航し、養豚農家の後継者数名は校内や実家が経営する養豚場で研修を行うことになったものの、その他の学生は農家で研修できることになりました。受け入れてくださった養豚農家は、いずれも卒業生が就労している所で、彼らの活躍に感謝するとともに経営主の期待に応えられるよう人材の育成により一層努力をしなければなら

ないと感じました。

10月18日(金)の最終日には、39日間の派遣実習を終えて、一皮むけてたくましくなった学生が元気な姿を見せてくれることを楽しみにしています。

（農学科　中谷　洋）

校　外　学　習
農大ＯＢ農家の栽培と経営を学ぶ in知多（切花専攻）

切花専攻２年生が９月６日(金)に、切り花農家の栽培技術と経営を学ぶ目的で、知多農林水産事務所農業改良普及課の協力を得て、スプレーギク農家とケイトウ農家へ校外学習に行きました。

スプレーギク農家の佐藤和史氏(知多市)は、農業後継者で親子２代で農業大学校の卒業生であったことから、学生は親しみを感じ、緊張がほぐれたようでした。

栽培技術の面では、育苗はソイルブロックを用いて省力化をしており、一部の温室では電照抑制用の LED を導入し、省エネを図っていました。

［佐藤氏(左)の説明を聴く学生］

経営の特徴は、葬儀などの業務需要向けに焦点を絞り、栽培品種のほとんどが白色スプレーギクでした。出荷先はＪＡあいち経済連で、予約相対取引を出荷量の70％も行っており、経営の安定化、大産地との差別化を図っていました。スプレーギク農家の間では、栽培技術以上に生産物をどのように有利に売るかということに関心が高いようです。

ケイトウ農家の戸田忠良氏（知多郡東浦町）も農業大学校の卒業生でした。経営の特徴は、カーネーション、ケイトウ、ストック、花菜などの多品目を組み合わせた複合経営でした。その中でカーネーションは、市場単価安、生産コスト高などの理由で生産量を減らし、生産コストがほとんどかからないケイトウの生産量を増やしてきました。ケイトウの播種は「種まき機ごんべい」で直播きして省力化を図っていました。また、比較的密植しており、農大のケイトウと比べ茎は非常に細く締まっており、高品質でした。

［ケイトウを前に戸田氏(左)の説明を聴く学生］

今回の視察によって、学生は農家の勝ち残り戦略やたくましさに感心したとともに、切花経営を取り巻く環境の厳しさを改めて知ることができ、有意義な校外学習となりました。

（農学科　野村　浩二）

中山間地域の水稲品種を学ぶ（作物専攻）

作物専攻の２年生７名が、９月４日(水)に校外学習で、愛知県農業総合試験場山間農業研究所を視察しました。

冒頭に、谷稲作研究室長よりパワーポイントを用いて山間農業研究所の概要や育成品種、育種方法について説明がありました。特に、本県の中山間地域で栽培されるブランド米「ミネアサヒ」に、いもち病とイネ縞葉枯病に対する抵抗性を導入した新品種「中部138号」について、育種された背景

や育種方法について重点的に説明を受けました。また、柔らかさが持続する糯（もち）品種「愛知糯126号」について紹介がありました。本品種は「短鎖アミロペクチン」を持った画期的な水稲糯新品種で、いもち病、イネ縞葉枯病の病気や倒伏、耐冷性に強く、安定した栽培特性を備えており、餅などの加工食品の柔らかさが長期間保持されるということで、興味を持つ学生が多くいました。

［左：説明を聴く学生、右：試験ほ場を見学］

その後、ほ場に移動し、個体選抜やいもち病抵抗性試験、耐冷性検定ほ場などの見学を行いました。学生たちは系統や品種の多さに驚いていました。また、いもち病抵抗性の違いによって、病症が明らかに異なることを知ることができました。

学生からは、病気が出やすい気象条件や「中部138号」が栽培できる地域、「愛知糯126号」がどのような商品に応用できるか等の質問があり、活発な意見交換が行われました。今回の校外学習を通じて、中山間地での水稲栽培の難しさや中山間地に適した品種特性について学習することができたと思います。　　（農学科　古川　恵）

大規模養豚養鶏経営と観光牧場を学ぶ（酪農専攻、養豚・養鶏専攻）

畜産課程の２年生が、梅雨明け間近の７月17日（水）に校外学習を行いました。

１か所目は、小牧市にある（株）クレストの本社ＧＰセンターと直売施設です。同社は中部、関東、関西に14農場を持つ養豚と養鶏の大規模畜産経営体です。最初に見学した鶏卵の処理工場のトヨタ自動車と共同開発した日本に１つしかない原卵受入れ・保管庫は、大量の原卵を農場・生産日などの情報を管理しつつ格納と取出しを無人で行うことができ、まるで物流倉庫のようでした。また、６万卵／時間を処理できる鶏卵の洗卵選別機は、内部異常や破卵の検知とサイズ分け、パック詰めまで自動でできるもので、徹底的な機械化や外国人材活用により人件費の削減を図っていました。

鶏卵処理場の見学の後は会議室でグループの事業の概要の説明を受けました。養鶏も養豚も衛生や環境を配慮した最新の施設を有し、養鶏事業は農場を分散して立地させ、鳥インフルエンザなどのリスク分散を図りながら全農場合わせて全国３位の飼養規模を誇っています。養豚事業ではリキッドフィードによる飼養管理を行い、関連事業では養豚養鶏関係資材や種豚「TOPIGS」の国内代理店業務を扱っているそうです。学生たちは大規模かつ衛生管理の行き届いた施設に感心するばかりでした。

２か所目は、日進市にある愛知牧場です。戦後に入植し、牛を役畜として導入したのが牧場としての始まりで、その後周囲の開発や都市化に合わせ経営内容を変化させていくなかで、昭和43年に牛乳処理を開始、乗馬・BBQ 場・花畑などを取り入れて観光牧場となっていったそうです。

［愛知牧場で６次産業化の実態を学ぶ専攻生たち］

今年の４月には牛乳の加工処理施設を更新しましたが、さまざまな経費が掛かるため販売価格の上昇が避けられず、販売経費

を抑制できる農場での販売をいかに増やすかが課題だということでした。このため、来場者が年間を通して繰り返し訪れるように様々な取り組みをしており、最近は SNS で取り上げられるよう花畑でのコスプレ撮影会などを行い、さらに今後はブルーベリーなどの果物狩り園に取り組むそうです。学生たちは牧場のジェラートを味わう一方で、経費・ノウハウ・大手業者との競合・販売方法など、６次産業の厳しい一面を知ることができたようです。

今回の校外学習では、それぞれの置かれた環境に力強く対応して経営を発展させている畜産経営体に触れ、学生たちは大いに刺激を受けているようでした。

（農学科　渡邉　久子）

専　攻　実　習

無人ヘリ及びドローンの実演（作物専攻）

作物専攻の水田約２ ha で、９月11日（水）に無人ヘリコプター（以下、無人ヘリ）による薬剤散布（カメムシ防除用殺虫剤）及びドローンの実演を行いました。

実演の前に、JA あいち経済連肥料農薬課の加藤課長補佐から無人ヘリ及びドローンの構造や使用上のメリット及び注意点、防除面積の推移などについて説明がありました。

［無人ヘリによる薬剤散布実演］

無人ヘリは短時間で効率的な防除が実施でき、平野部の広大な土地での使用が適しています。これに対してドローンは小回りが利き、集約されていない小規模・中規模農地にも使用できます。ただし、稼働時間が無人ヘリよりも短いため、作業効率は劣ります。また、無人ヘリは非常に高価で、操縦のためには教習を受講して技能認定証を取得する必要があります。一方ドローンは無人ヘリと比べると安価で求めやすく、操作性もヘリよりも容易で資格も必要ありません。平成29年に農業用ドローンが登場して以来、本県では水稲450ha、麦110ha、大豆150ha（平成30年）あまりの面積で利用があるそうです。法規制の緩和が進み、今後も利用面積の伸びが期待されています。

［無人ヘリとドローンについて説明を受ける学生たち］

説明を伺った後、東海スカイテック株式会社によって実演が行われました。無人ヘリの操作は一人がリモコン操作を行い、一人がスタートとストップの指示を出す方法で行われ、２ ha の水田を約30分程度で散布するという短時間での効率的な防除を見学することができました。ドローンの実演では、容易な操作性を実感することができました。

学生は普段見ることができない防除方法に興味を持って見学しており、価格や稼働時間、バッテリーの充電時間などの質問を行っていました。また、学生の中には将来購入したいとの声も聞かれました。

（農学科　古川　恵）

農業者生涯教育研修
愛知農業次世代リーダー塾を開講

今後の愛知県農業を牽引する優れた経営感覚を備えた担い手を育成するため、農業経営の中心として営農しながら高度な経営ノウハウを学ぶ場として、「愛知農業次世代リーダー塾」を９月11日(水)に開講しました。

本年は２期目にあたり、受講生は経営発展を目指す意欲的な14名で、特に次世代を担うべき30代から40代までの年齢層が大半を占め、経営内容も個人事業主から法人経営者の方、また、栽培する作目も野菜、花き、果樹、畜産など多岐にわたっております。

［本年度の受講生と関係者で記念撮影］

開講式に引き続き、アグリコネクト株式会社社長熊本伊織氏の「経営者に必要な経営ビジョン」、こと京都株式会社社長山田敏之氏の「こと京都の歩めと経営理念」の講演の後、グループワークで「経営理念シート」の作成に取り組みました。開講初日から積極的に演習への参加を要求され、次回までの宿題も課される内容でしたが、受講者の感想はいずれも前向きで、意識の高さが感じられました。

これから２月12日(水)までの約半年間にわたり、全国トップレベルの講師陣を迎えて経営・財務管理、労務管理、マーケティング等の高度な経営ノウハウを身につける予定で、閉講時には各自作成した経営計画を発表します。この塾を通して各受講生の成長が大いに期待されます。

（担い手支援科　野々山利博）

イチゴの生産高度化研修を開催しました

生産高度化研修「イチゴの生産安定に向けて」を、７月５日(金)に開催しました。

出席者はイチゴ生産者、JA 職員をはじめ151名でした。

［多数の受講者が出席］

愛知県農業総合試験場園芸研修部野菜研修室松浦元樹技師から「イチゴの品種の育成状況について」、トヨタネ株式会社施設部牧瀬勝則部長代理と佐藤産業株式会社営業部小川泰紀企画課長より「ハウスの台風対策について」、JA あいち経済連園芸部青果販売課杉浦正和課長補佐より「イチゴの市場情勢について」の講演がそれぞれありました。

そして最後に、愛知県農業総合試験場企画普及部広域指導室加藤美雪専門員を座長に総合質疑を行いました。そこでは、昨年度の台風災害を教訓に台風対策についての質問が多く出され、関心の高さが伺えました。研修後のアンケートでは、「実践的で良かった。」の意見も多くいただき、有意義な研修となりました。

（担い手支援科　福井　敏幸）

大特免許研修・けん引免許研修と技能試験を実施しました

研修部が実施する大型特殊自動車免許取得及びけん引免許取得を目的とした「大特免許研修」と「けん引免許研修」（いずれも農耕車限定）は、農業機械研修の大きな柱となっています。

大特免許研修は、今年度７回予定しており、第１回を７月10日(水)から12日(金)、第２回を７月17日(水)から19日（金）まで実施し、ほぼ定員の32名が受講しました。

研修では、踏切の通過や方向変換などの課題を含んだコースの安全走行練習や技能試験さながらの模擬試験を行います。受講生の年齢層は､20歳代から70歳代と幅広く、運転のクセも様々ですが、初心に立ち返り基本に忠実に操作することが肝心です。

また、けん引免許研修は今年度２回予定しており、第１回を８月６日(火)から９日(金)まで実施し、本校学生を含め10名が受講しました。

［本番さながらの模擬試験］

けん引操作で特に難しい後進による進路変更や方向変換の練習に、多くの時間を割きます。研修後半には、大特免許研修と同様にコースの安全走行練習と模擬試験を行います。けん引操作が初めてという受講生には補講を行い、みっちり方向変換を練習していただきました。

７月30日(火)と８月28日(水)の技能試験は、愛知県警察本部運転免許試験場の試験官による出張試験として実施しました。研修で練習を重ねた運転コースを使用して行う出張試験は、本校農業機械研修の大きな特長の一つです。この２回の技能試験で、今回の研修生と本校学生の｢資格取得講座｣受講生をあわせて、大特免許を62名が、けん引免許を９名が新たに取得しました。

（担い手支援科　落合　敏弘）

消防防災訓練を実施しました

９月２日(月)、始業式終了後に農学科生と職員を対象に消防訓練を実施しました。

午前11時10分に大規模地震が発生し、その地震により和耕寮から火災が発生したとの想定のもとで訓練を実施しました。

地震発生と同時に、各自がその場で「姿勢を低く」「頭を守り」「じっとする」３つの動きを身に付けるあいちシェイクアウト訓練に取り組みました。その後、学生は職員の誘導のもとに学生寮から運動場に避難しました。

［左：職員による放水訓練　右：水消火器での訓練］

その後、自衛消防本部設置訓練として、通信連絡班による消防車出動要請、避難誘導班による学生・家畜の避難誘導、救護班からは負傷者の有無等の状況報告を実施しました。また消火班は中央教育棟１階ホールにある消火栓を使った放水訓練を行い、使用方法を確認しました。

放水訓練後、岡崎東消防署職員の指導によって、運動場で学生及び職員が水消火器を使った消火訓練を実施しました。日頃、何気なく見ている消火器を実際に手に取ることで、いざ火災発生の時に落ち着いて消火活動ができるよう期待しています。

年に１回の消火防災訓練ではありますが、巨大地震の発生が懸念される中、学生

や職員の防災意識を高めるために有効な取組となりました。　（副校長　堤　公生）

農大からのお知らせ

◇緑の学園（１日農業体験学習）◇

・開催日時
第５回　12月24日(火)
午前10時から午後４時30分まで
（雨天実施）
・対象：主に高校生（農業を学びたい高校卒業生を含む）
・定員：30名
・場所：農業大学校
・受講申込書を郵送またはファクシミリで研修部まで送付してください。
（締切日：12月１日(日)）
・詳細は本校ウェブサイトをご覧ください。
・問合せ先：就農支援科(野村)
0564-51-1034

◇令和２年度入学者選抜試験◇

一般推薦入学試験
・出願期間：令和元年９月30日(月)から
令和元年10月16日(水)まで
・試 験 日：令和元年11月１日(金)
・合格発表：令和元年11月13日(水)
・試験科目：小論文（800字以内）
面接試験
・募集人員：定員100名のうち２／３以内
（特別推薦入学者を含む）
・受験会場：農業大学校

一般入学一次試験
・出願期間：令和元年11月12日(火)から
令和元年11月27日(水)まで
・試 験 日：令和元年12月10日(火)
・合格発表：令和元年12月19日(木)
・試験科目：数学Ⅰ、小論文（800字以内）
面接試験
・募集人員：定員100名のうち推薦入学合格者を除く人数

・受験会場：農業大学校

一般入学二次試験
一般入学一次試験で合格者が定員に満たなかった場合に実施します。

その他
・特別推薦入学試験、その他入学試験についての詳しい情報は、本校ウェブページをご覧ください。
・問合せ先：学務課(鈴木)0564-51-1602

◇生産物実習販売ごよみ◇

令和元年10月の生産物実習販売についてお知らせします。
・販売日：10月２日、９日、16日、23日、30日(祝日を除く毎週水曜日です。)
・時　間：午後３時から
・場　所：農業大学校体育館
※なお、袋入り堆肥の販売は、豚コレラ防疫対策の実施状況に合わせて再開します（新たな発生がない場合、10月９日の販売再開を予定)。
・問合せ先：農学科(山本) 0564-51-1673

校内で豚コレラ防疫対策実施中

農大では、豚コレラ防疫対策を以下のとおり実施中です。来校される皆様の御理解と御協力をお願いします。
○畜舎のある衛生管理区域への関係者以外の立入禁止
○農大内の主要な通行ポイントに消毒用の消石灰を散布
○主要な教育施設の各出入口付近全てに踏込消毒槽を設置(靴の消毒)
○関係車両等の消毒の徹底
（車両消毒槽、動力噴霧器）
○その他、諸防疫対策を実施